

男女のイメージ「家庭」編

「男は仕事、女は家庭」という、いわゆる「サラリーマン—専業主婦」の家族形態は、戦後の高度経済成長期に一般的となりました。しかし、今は結婚・出産後も働く女性が増えています。それにもかかわらず、家事・育児は女性の役割として女性だけに押しつけていては、大変な負担となります。家庭生活は家族みんなでお助け合うものです。家族のあり方は、家庭の環境や構成する人によっても異なりますが、性別だけによる役割分担にこだわりすぎるのは問題ではないでしょうか。

男女のイメージ「職場」編

一般的に、男性には重要な責任ある仕事を、女性には補助的な仕事を、という考え方や言動がみられます。また、指導者や上司、政策決定などをする会議のメンバーは、男性ばかりという形になっていると思います。もともと、これまでは、女性の仕事に対する自覚が欠けていたことも否定できません。

ただ、性別による能力の差はないと思います。最近では、男性の職

業と考えられていた建築士や運送業などで女性が活躍するようになってきました。その反対の例も

あります。職業や担当する仕事を性別で分類せずに、個人の能力や個性で選択し、共同して仕事を進めていける社会にしたいものです。

男女のイメージ「地域」編

地域の清掃活動や子どもの学校行事、ボランティア活動などは女性がするもの、というイメージが定着していませんか。事実、そういった活動を行っているのはほとんど女性ですが、その代表や会長などの役職は男性が担っています。

地域で活動している男性もたくさんいます。また、リーダーは男性でないと務まらないものではないかもしれません。男性はこれまで女性まかせにしてきた分野にも目を向け、女性には指導的な役割にも積極的に関わっていただきたいものです。そうした気持ちを家族や地域で、応援できるような雰囲気づくりを作り上げたいものです。

男女のイメージ「子ども」編

家庭や学校生活の中で、子どもたちを「男(女)の子はこうある

べき」という、性別の枠にあてはめようとしていませんか。

子どもたちに限らず、私たちは一人ひとり違います。好きな色も違えば、運動が得意な人もそうじゃない人もいます。ちょっと気の弱い人やたくましい人など、性別とは関係なく、いろいろな能力や性格を持っています。子どもたちがのびのびと個性を伸ばし、一人の自立した人間となれるように心がけたいものです。

あるがままに生きよう

長い歴史の中で作られてきた、性別による役割や生き方に対する

意識を変えることは簡単ではありません。「男女共同参画」の考え方は女性だけを支援して、男性を批判しているようにとられがちですが、決してそうではありません。「男として」ではなく、「人として」生きるという点で、男性にとっても大切なことです。弱音を吐くなどといった従来の男らしさという考え方に縛られて、仕事などで悩み苦しんでも、誰にも相談できずに、最悪の事態を招いてしまうこともあります。男女とも性別の枠から解放されれば、気持ちにゆとりができ、有意義な生活を送ることができると思います。



「夢」にまっしぐら!

蒲郡市国際交流員
ジュディ・ワン

(今年8月、市の国際交流員としてアメリカから来日。英会話や国際理解講座など国際交流事業を担当しています。)

私は16歳の時、車に興味を持って、タイヤ交換や修理の仕方をいろいろ知りたかった。でも、お父さんが「手が汚れるから、女の子はそんなことしなくていい。」と言って、教えてくれなかった。弟には教えてくれたのに……と、すごく悔しい思いをしたことが1回だけあります。

両親は、私には自立した人間になってほしいようです。私は通訳になるのが夢で、これからもどんどん日本語を勉強して自分の夢をかなえたいです。